資料1

プレコンセプションケアの推進に向けた令和7年度の取組について

－1　大阪府性と健康の相談センター事業

－2　大阪府早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業

令和8年11月19日

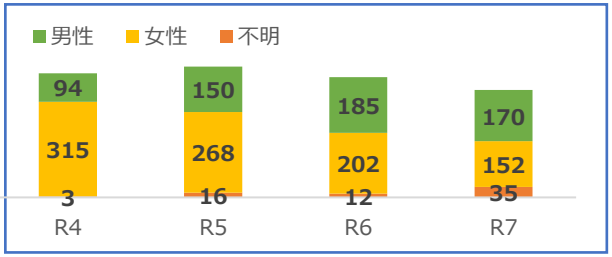
大阪府　性と健康の相談センター事業　実績

不妊・不育　電話相談

【相談時間】

・第１・第３水曜日　10時～19時
・第１～第４金曜日と第２・第４水曜日10時～16時
・第２土曜日　13時～16時

【相談員】
助産師（1名体制）

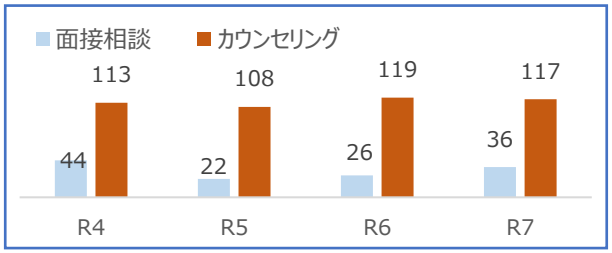


【背景・評価】
・令和5年度よりセンター名称を変更したことにより、男性からの相談が増加したと推測される。
・相談員連絡会議では、女性の相談件数が減少、男性の相談件数の増加の要因として、女性の相談については、SNS相談等、相談窓口が多様化しているため、相談希望者が分散している一方で、男性が相談できる場所はまだ少ないことが挙げられていた。

不妊・不育　面接相談・カウンセリング

【女性産婦人科医師による面接相談】
第2土曜日　14時～17時
30分/組・4組/日　※利用は１組1回まで

【助産師又は公認心理師によるカウンセリング】
第１・第３土曜日13時～17時、
月2回木曜日18時半～20時半（50分/組）

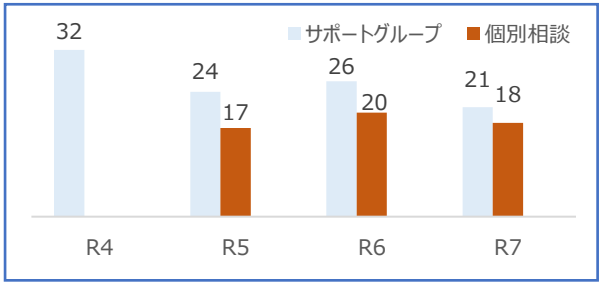


【背景・評価】
・カウンセリングは実施枠が決まっているため参加者数は概ね横ばいで推移。
・R4年度の不妊治療の保険適用化に伴い、R5年度からは面接相談件数が落ち着いている。

グリーフケア

【開催時間】
偶数月第４水曜日と奇数月第４土曜日
14時～16時　定員４名程度

【相談員・ファシリテーター】
ピアカウンセラー又は助産師

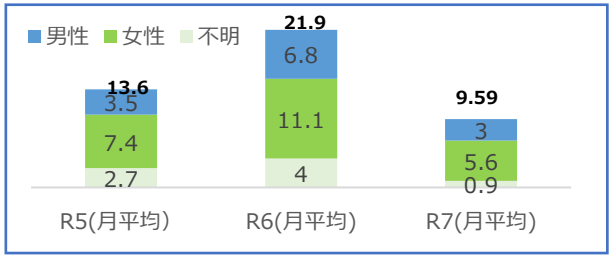


【背景・評価】
・R4年度から開始、R5年度から個別相談を新設。
・個別相談の開設により、最初からサポートグループへの参加はハードルが高いと考える相談者の受け皿となり、相談件数の増加に繋がったと推測。

カラダと性の相談室（チャット）

【相談時間】
第1～第4金曜日
16時～20時

【相談員】
助産師（１名体制）

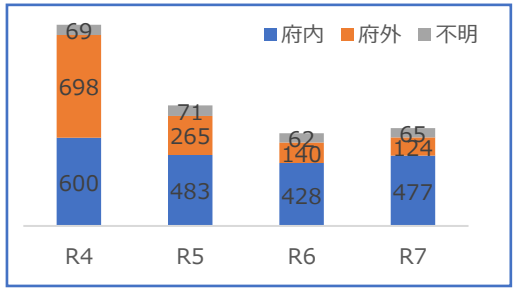


【背景・評価】
・R5.6月から開始。
・主な周知先は高等学校や大学等の教育機関。
・R7より相談者を大阪府在住、在勤、在学の方へ限定したため、件数が減少。

にんしんSOS

【相談時間】
月～金曜日（祝日除く）　10時～16時
日曜日　正午から18時

【相談員】
保健師・助産師（2名体制）

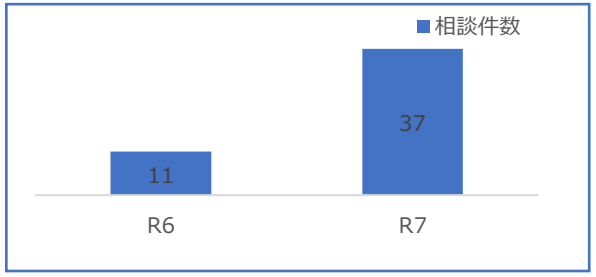


【背景・評価】
・R5年度以降、府内からの相談件数の減少幅に比べ、府外からの相談件数の減少幅は大きい。要因として、近隣県のにんしんSOSの開設等によるものと推測。
・相談者の年齢は、10～20代の若年者が多く、R7年度は10代の相談が全体の3割、学生は全体の3割を占めた。
・R6年6月より、これまでの電話・メール相談に加え、通話料のかからないLINEコールによる通話相談を新たな相談方法として追加。

妊娠と薬の相談支援　【R6.10月から開始】

【相談時間】
医療機関による

【相談員】
産婦人科医



【背景・評価】
・成育医療研究センターでの問診システムに登録後、都道府県の医療機関へかかる必要があり、通常の相談支援よりもハードルが高い。
・R7については府民向けの講座開始前に制度を案内する等により周知を図った。

カラダと性の相談室（チャット相談）の相談実績（R7）

性別

性別	件	%
女性	67	58.3%
男性	37	32.2%
不明	11	9.6%
合計	115	100.0%

年齢

年齢	件	%
～19歳	55	47.8%
20～29歳	22	19.1%
30～39歳	16	13.9%
40～49歳	9	7.8%
50～59歳	3	2.6%
60歳以上	1	0.9%
不明	9	7.8%
合計	115	100.0%

10代、20代の割合が約6．７割

相談主訴

主訴	件	%
心身に関する相談	30	26.1%
思春期の健康相談	28	24.3%
妊娠・避妊に関する相談	10	8.7%
性感染症等	5	4.3%
メンタルケア	4	3.5%
不妊に関する相談	3	2.6%
婦人科疾患・更年期障害	3	2.6%
その他	32	27.8%
合計	115	100.0%

チャット相談に寄せられる相談内容（一部抜粋）

○心身に関する相談

おりものや生理、月経痛について、自分自身の性（トランスジェンダー）について、セルフプレジャーへの悩み、包茎について

○妊娠・避妊に関する相談

パートナーとの性行為について、性行為に対する恐怖感について、妊娠不安、疾患や薬の服用による影響について、避妊対策について

○思春期に関する相談

思春期の親族との接し方、射精について

○その他

医療機関の診療内容に関する不安、未成年者の婦人科受診について、

【令和7年度創設】

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業の実績

講座・各種費用助成の実績　【7/10～】早発卵巣不全患者の卵子凍結助成受付開始　【8/27～】プレコン講座開始

開催日		申込者数	出席者数	10代		20代		30代		平均年齢
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	
第1回目	8月27日	201	178	0	0.0%	26	14.6%	152	85.4%	33.8
第2回目	9月10日	183	148	1	0.7%	27	18.2%	120	81.1%	33.3
第3回目	9月24日	124	98	0	0.0%	22	22.4%	76	77.6%	33.0
第4回目	10月8日	108	88	1	1.1%	30	34.1%	57	64.8%	31.8
第5回目	10月22日	89	73	0	0.0%	19	26.0%	54	74.0%	32.2
第6回目	11月12日	149	120	1	0.8%	22	18.3%	97	80.8%	33.0
第7回目	11月26日	110	85	0	0.0%	32	37.6%	53	62.4%	31.4
第8回目	12月12日	84	68	0	0.0%	27	39.7%	41	60.3%	31.1
第9回目	12月23日	86	68	1	1.5%	22	32.4%	45	66.2%	31.9
第10回目	1月9日	98	87	0	0.0%	31	35.6%	56	64.4%	31.3
第11回目	1月24日	142	125	0	0.0%	39	31.2%	86	68.8%	31.6
第12回目	2月5日	171	147	0	0.0%	52	35.4%	95	64.6%	31.2
第13回目	2月19日	170	141	1	0.7%	53	37.6%	87	61.7%	31.0
計		1,715	1,426	5	0.4%	402	28.2%	1019	71.5%	32.0

【令和7年度創設】

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業の実績

講座・各種費用助成の実績　【7/10～】早発卵巣不全患者の卵子凍結助成受付開始　【8/27～】プレコン講座開始

プレコン講座受講対象者								早発卵巣不全患者
申込者数	出席者数	アンケート 回答者数		AMH検査受検後 アンケート回答数		卵子凍結後アンケート 回答数		卵子凍結 助成件数
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
1715	1426	1382	96.9%	850	61.5%	39	4.6%	12

※アンケート回答者のうち、令和7年度中に費用助成を受けた人数は、AMH検査（844人）、卵子凍結費用助成（プレコン受講：37人、早発：11人）

【参考】プレコン講座を知ったきっかけ

選択肢	回答数 ※複数回答可
大阪府ホームページ・チラシ	480名
医療機関からの紹介	350名
友人・知人からの紹介	151名
その他	110名

・YouTube（産婦人科医のチャンネル）
・X/Instagram　・ニュース、ネットニュース
・Google検索/「卵子凍結　大阪」で検索した。
・協会けんぽ（メルマガ）、グレイスバンク
・chat GPT/検索したらAIがお勧めしてくれた。
・家族からのすすめ

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業　プレコン講座について

講座に対する意見①　※主な意見を抜粋。趣旨を変えない範囲で府において一部編集。 令和8年2月評価WG資料より更新した項目を「〇」

区分	内容
全体的な感想等	【講座の感想】 ・SNSなどでは不確かと感じられる情報が多く、専門の先生による情報を入手しにくいと感じていたので、**今回初めて専門の医師から話を聞くことができて初めて知る情報も多く、大変勉強になった**。 ・**実際の統計やグラフで専門家による説明を聞き**、大方は理解していたが、**改めて深く危機意識を持てた**。 自分で判断し選択することはとても重要だと感じた。 ・仕事が優先で、**何か調べたり、病院に行ったりとした行動に移せておらず、web講座で情報を得ることができて助かった**。 ・**妊娠出産についてはセンシティブでなかなか友人や知人と深く話すことが難しく**、経験談も聞けて良かった。 ・**卵子凍結も必ずしも推奨するわけではなく、その選択肢を持たせてくれる**ような研修会であったのが良かった。 ・妊娠出産に適齢期があることについて、**もっとはやく知っていれば、出産の時期を前倒しに調整していた**（もっと若いうちに婚活、妊活をしていたのではないか）と思う。 **〇男性向けの同じような内容の講座があれば、パートナーの理解を得られたり、治療するにあたっての協力もスムーズに得られそう**と感じた。 **〇中・高・大学生の頃から学ぶ機会があれば、もっと選択肢の多いうちにライフプランを考えやすくなる**ように思う。 【今後の生活について】 ・**自分の体やライフプランを見つめ直すきっかけになった**。今後もっと健康を意識して後悔のない人生を送りたいと思った。 ・女性の大切な妊娠・出産のことなのに知らないことばかりで、ぼんやりと妊娠できるだろうと思うよりも**しっかり行動に移して、積極的になることが必要だと感じた**。 ・**自分の努力で変えられる部分はたくさんあることを学び**、日々の改善に繋げたい。
知れてよかったこと	【身体や妊娠の仕組み・プレコン】 ・**年齢と不妊の相関について驚いた**。/AMHの値が高い45歳より、値が低い25歳の方が妊娠しやすいという点は驚いた。 ・**1回の月経周期で1000個の卵子がなくなること**。 ・**栄養の摂り方や睡眠などの生活**について。今まで妊活している中で足りなかったものがあったのに気づいた。 ・妊娠前に**葉酸サプリ**を服用した方が良いということと、最小摂取量や、摂取時期について。 ・**POIという病気があること**を初めて知った。 ・**低用量ピルやLEP剤には、妊娠する能力を温存させるといった効果は特にない**ということ。 【卵子凍結】 ・卵子凍結をしたからといって**絶対的に妊娠できるものではないということ**。40歳前後での妊娠率は高くないこと。 ・**一人妊娠するのに10個の卵子が必要**になること。 ・**若いうちしておいた方が良い**ということ。 ・**解凍した卵子は劣化する懸念**があったが、今回”それはない”ということを教えてもらえてよかった。 ・質疑応答集が、自分が聞きたいことであった。 ・凍結卵子解凍時の**生存率が90%**であること。 ・**採卵する卵子については本来使用されない卵子であること**。前借りをするのかと思っていたので安心できた。

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業　プレコン講座について

講座に対する意見②　※主な意見を抜粋。趣旨を変えない範囲で府において一部編集。 令和8年2月評価WG資料より更新した項目を「〇」

	内容
もっと知りたかったこと・不安なこと 等	【検査や身体の状態などについて】 ・ピルを長年服用していたので、その影響で現在の自分の身体の状態や卵子の数などに影響がないのか気になった。 ・ブラダイダルチェックとは何か、どのくらいの値段がかかって、どのような検査があるか、なども知りたかった。 ・ピル服用中の場合、検査の何ヶ月前に使用を控えればいいか。（※本制度ではピル服用中の受検も助成対象） 【妊娠に向けて】 ・子宮内膜症と診断され、将来妊娠ができるか不安。/過去に卵巣嚢腫の手術を受けており、不安がある。 ・過去に卵巣摘出しており、将来妊娠を考える中で然るべき時に出産が出来るのかどうかか不安やストレスが常にある。 ・ダウン症などの卵子の質の話も聞きたかった。 ・仮に凍結卵子を使って体外受精をしても不育症の対策ができていなければ、卵子が無駄になってしまうため、不育症の話もしていただけると良いかと思った。不育症という存在を知っているだけで、選択肢が広がることもあると思う。 ・妊娠しにくいと判明した場合に、医療機関でどのような治療が受けられるのか。 【卵子凍結について】 ・医療機関をどこにするか悩む。選ぶ際のポイント・指標があればよいのにと思う。 ・現在が最も若い日と思いながらも仕事が忙しく、受診日を確保できるか、実際に採卵の日程をクリアできるかとても不安。 ・静脈麻酔が必要な場合もあると聞いたが、麻酔について不安。 ・葉酸の摂取は卵子の採取をする際も行っていた方がいいのか。 〇実際の卵子凍結にかかる費用についても知りたい。 【男性の不妊について】 ・妊娠を考える上で男性側の不妊についても知りたい。 ・精子の話も少し聞きたかった。 ・夫が遺伝毒性のある薬を服薬している為、諦めないといけないかもしれない。 【その他】 ・経験談については、現在奮闘中の方のお話もあれば良いかと思った。 ・「若いほうがよい」というは事実であるしわかってはいるが、それが叶わなかったため悩んで受講を決断したので、もう遅いと言われているようで疎外感を感じてしまった。 ・今後、卵子が増えることこともないし、妊娠しやすくなることもないと思うと、焦りと悲しさが募る。何か少しでもそれを食い止めるられるような情報が多ければ前向きになれる。 〇助成に必要なAMH1.0の基準値は低すぎるのではないかと思う。中央値以下までを対象に拡大してほしい。